

連文

R E N B U N



年頭のごあいさつ

西日本新聞社 久留米総局長 浜田 耕治

提言―新しい時代の

連文になるために

令和元年度 久留米市表彰

第66回 桃青忌俳句大会

第47回 連文会員美術展

第39回 連文会員華道展

第73回 久留米茶道連合会法要大茶会

久留米連合文化会

明けましておめでとうございませす

新年にあたり、寄稿していただきました。

年頭のごあいさつ

西日本新聞社久留米総局長 浜田 耕治



「坂本繁二郎さんは恐ろしい人ですよ」。西日本新聞の久留米総局記者(当時)が2011年9月に現役最古参の画家、野見山眺治さんにインタビューした際、飛び出した言葉です。

野見山さんは30歳の頃、新聞社の企画で当時70歳の坂本さんと対談しました。「私の絵をどうお思いですか」。坂本さんにこう問われた野見山さんは、「(41歳の時の作品)『帽子を持てる女』は日本人が描いた油絵で最高と思う」と力説します。すると、坂本さんは「それでは最近の作品はどうですか?」と尋ねたそうです。

日本洋画界の巨匠でありながら、坂本さんは70歳になっても自らの絵を追究し続けていたのです。その後も、素晴らしい作品を次々と世に出した坂本さん。野見山さんは「地表から光を放って弧を描い

た虹は、上に行つてぼやけかけるけど、地表に戻るときにすごい光を放つ。坂本さんはまさに虹だ」と話していました。

この話を思い出したのは「久留米連合文化会」が今年、発足から70周年を迎えたからです。文芸、美術、舞台芸術など6部門、29の専門分野で活躍する630人以上の芸術家を束ね、地域文化の裾野を広げていく活動は、並大抵の努力ではできません。会員の皆さんに飽くなき探求心と情熱があつたからこそ、70年もの間、活動を続けることができたのではないのでしょうか。

「あの困難な世相の中で、何の得にもならない文化行事を、裸一貫でやり通していった、あの情熱は失いたくない」。連文の前身、「文化の会」の呼び掛け人である美術評論家の岸田勉氏は、記念誌にこんな決意をつづっています。戦後の「文化」復興にかけた心意気は、今も連文に脈々と受け継がれています。高齢化と会員減少が懸念される昨今ですが、きつと克服できると確信しています。

2020年が明けました。連文にとつては、80周年に向けて新たな歩みを始める年です。今後さらには強い光を放ち、久留米の地に大きな虹をかけてほしい。そう願っています。

提言―新しい時代の久留米連合文化会になるために

現在(いま)の久留米連合文化会をさらによくするために、私たちは新たな在り方を目指していきたいと考える。今は部門ごとに活動を行っているが、その垣根を越えて、それぞれが複数の部門を交えた活動を行うことが久留米文化の広がる近道だと感じる。一部門のみでの活動は、その世界観で創られてしまいかねず、価値が十分に生かされないのでないだろうか。その状況を打破するためにも、私たちは原点に帰り、先人たちがどのような想いでこの「会」を作ったのかを振り返ることにした。

久留米連合文化会(以下、連文)の創立者の一人、丸山豊氏が昭和51年7月号〜昭和55年7月号までの3年間、連文会報誌に11回に渡って書き記された「緑の追想」。そこには、連文の原点を知ることができるとの一文がある。

(以下、緑の追想内「招待の記」抜粋)
「世代・職業・流派などの差別なく、多数の有志がすすんで入会されて、文化の会の中核からこれをゆさぶるような強烈な実践をしめしてほしいと願っている。」

現在(いま)の私たちの活動を振り返るとどうなのだろうか。強烈な実践ができていると言えるのだろうか。年一回の総会で交流する機会があり、その先に繋がられているのだろうか。

文芸、美術、舞台芸術、華道、茶道、総

合文化と、多分野で活躍する仲間がせっかく集まっている会なのだから、他部門への関心をもっと深めてもよいと考える。部門ごとに壁とまでは言わないが、きちりとした仕切りがあると感じている。

その仕切りを取り除くことに難しい技術はきつと要らないはずだ。同じ文化活動をしているのだから、きつと共通、共有、共感できるものがあるはずなのだ。もちろんこれまでやってきたカタチを変えることに誰しもが抵抗する。違つ分野であることは分かり合えないと諦め、否定しがちだ。一人一人は「こうしたらもっと良くなる」とか、『あんなことやってみよう』、など色んなアイデアを持っていると思う。しかし、声をあげたり一歩踏み出すのに勇気がある。先入観が邪魔して受け入れられない。お金が絡めば採算がとれるのかと躊躇する。これらは全て私たちの反省だ。沢山の人が集まっている会なのだから、できることは個人に比べて格段に広がっている。ここで試みずして、どこで挑戦するのか。垣根を超えた積極的な交わりが、久留米文化の活性化に繋がることが伝われば、きつとみんな背中を押してくれるはずだ。現代の言葉を使うならば、連文ファミリーという言葉ではないか。「招待の記」にはこうも記してある。「郷土の文化発展のために―久留米文化の会も発会以来すでに1年と

3月をけみして、いくたの非難を浴びながら、前進とともに内省を、発展とともに脱皮をつづけている。」

いくたの批判を浴びながらも久留米文化の発展のため、前へ前へと突き進んでいった先人たち。その当時の熱意に負けないよう、私たちも変化を恐れず、時代に応じた連文づくりに向けて、前進していきたい。(広報委員会「LOVE GENERATIONS」)

追伸—返す言葉

「開かれた連文」は何処に向かつて開かれ、何処に向かおうとしているのか。

各論と総論 事あるごとに所属する部としての発言に終始する現状、誇りの裏側にへばりついた驕り(総じて先生と呼び合うことへの安心感)、若返りの連呼、矍鑠足り得ない精神(見た目だけではない精神の若さ)、部の隔たりを超えた若年層の集い(若衆塾、伝統の継承と新しい風)。「古い船には新しい水夫が 乗り込んでいくだろう 古い船をいま 動かせるのは 古い水夫じゃないだろう なぜなら古い船も 新しい船のように新しい海へ出る 古い水夫は知っているのさ 新しい海のこわさを」

連文を「どうにかせんといかん」ということでは、意見は一致している。そこで障害となっているのは、70年をかけて爛熟し尽した連文そのものであることも紛れもない事実である。どうすればいいのか、それは連文会員一人ひとりの、しなやかで強かな意志のみである。(広報委員会)

令和元年度 久留米市表彰

連文会員で受賞された皆さんをご紹介します。11月3日(文化の日)市の表彰式が行われました。

芸術奨励賞

芸術分野で今後の活躍が期待される人に贈られました。

■洋舞部 涉将人



去る11月3日、私は久留米市芸術奨励賞を受賞するという栄誉に浴しました。未熟

な私がこのような立派な賞をいただき、身の引き締まる思いが致します。久留米の地に足を下ろして、地域の皆様方へバレエ芸術の素晴らしさをお伝えし、また後進を指導しておりますが、今後は同賞に恥じぬよう、ますます精進して参る覚悟でございます。その授賞式の翌日には久留米シティプラザ・グラントホールにて、フジタバレエ研究所の創立70周年記念リサイタルとして「シンデレラ」全幕上演が催され、その際には姉の一人を踊り、9日には私が指導する朝倉教室の舞台で、私の振付作品を披露しました。本年の本市以外の活動としまして、京都・大阪・名古屋・岐阜・福岡・宮崎・鹿児島舞台に出演する予定です。これから一層気を引き締め、励んでまい

りますので、御指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■華道部 月足草香



この度は栄えある芸術奨励賞にお選びいただきありがとうございます。ございました。

草月流師範でありました父の指導を幼少期から受け好きな花をただ生け続けてまいりました。まさか自分がこのような賞をいただけるなど夢にも思っておりませんでした。

これも今まで私を指導し育てていただいた先生をはじめ支えていただいた諸先輩方や仲間また花をとおして色々なご縁を紡いでくださいました。皆さまのお陰であります。今後も多くの人たちとの絆を大切に精進してまいります。

■書画文化部 中川 勝詔



1999年(平成11年)久留米連合文芸会会員に推挙いただき早いもので20周年、この節目の年(令和元年)に、久留米市芸術奨励賞の栄を賜り、喜びと同時に責任の重さを心に受けとめ身の引き締まる思いです。支えてくださっている皆

様に心よりのお礼と、深い感謝の念に堪えません。この受賞を記念しての「展覧会」、「個展」はもちろんです、今後、ご高齢の方々や子供たちへの精力的な指導・支援活動に微力ながらも邁進したいと思っております。大好きな久留米の地を中心に、芸術に少しでも多く触れることのできる「ほっ」と、癒される街「久留米」を目指し力を注ぐ所存です。

久留米市功労者

文化振興、社会福祉の増進など、市の振興発展に寄与した人が表彰されました。(文化振興)

■国際交流文化部 諸石 壽人(祥雲)



「書は人なり」「書は心画なり」と言われますが、心の在り方によって、その時々

の字が異なってきます。嫌なことや大変なことがあっても、一日一筆ずつ進む先にしか、私の芸術性はありません。丸山豊先生の「内に強烈な批評を持ち、つねに自主的で青年性を持つ文化の会」という言葉を信念にして、いつかは私が種をまいた書文化が花開くことを念じつつ、書の文学性・芸術性・人間性を追求していきたいと思えます。今までご指導いただいた先輩諸氏をはじめ、支えていただいた会員の皆様方、ありがとうございました。

第48回連文会員美術展

会期「1期」10月9日(水)～13日(日) 彫刻・書道・デザイン

「2期」10月16日(水)～20日(日) 洋画・工芸

「3期」10月23日(水)～27日(日) 日本画・水墨画・写真



洋画「RIZUMU」
三小田 眞智子 (久留米市)



洋画「街」
野口 睦幸 (小郡市)



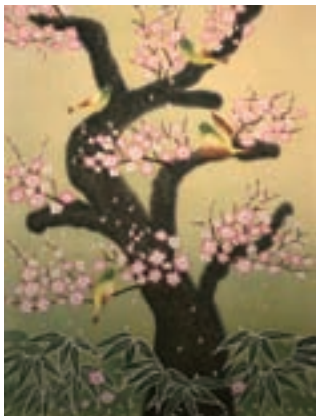
彫刻「放日2019」
津留 初仁元 (久留米市)



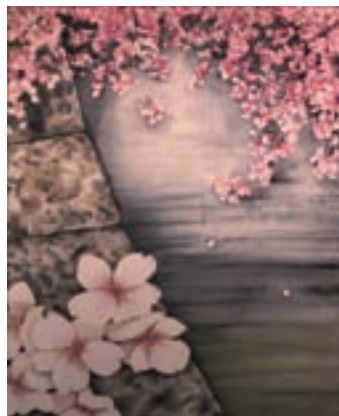
水墨画「はるかのひまわり」
田中 恵華 (三養基郡)



日本画「旅愁」
山口 由美子 (小郡市)

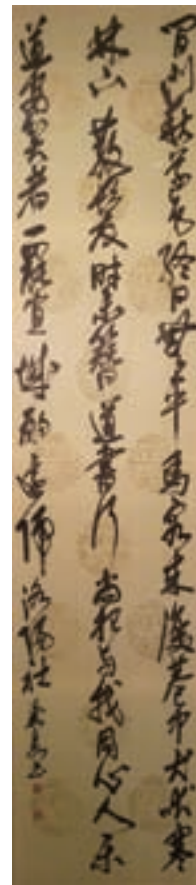


工芸「令和」
辻 リツ子 (久留米市)

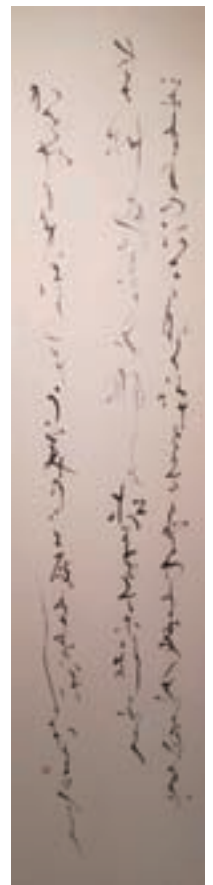


工芸「古城の春」
中矢 郁世 (久留米市)

会員賞
出品数は洋画41点、日本画10点、水墨画10点、彫刻4点、工芸10点、書道53点、写真35点、デザイン6点。会員賞は12点です。



書道「過季揖宅」
豊田 寿泉 (久留米市)



書道「雁が音の」
井上 香碧 (久留米市)



デザイン「大蛇山」
吉崎 勇 (久留米市)



写真「初雪」
檀上 善一 (久留米市)



写真「もっと私をかわいがれ」
森山 峰熙 (大木町)

第39回連文会員華道展

2019年9月16日(月)〜19日(月) 久留米シティプラザ

例年の岩田屋より会場が変わり、心配された入場者も、期間中二千名を数える振るわいに関係者一同嬉しい悲鳴でした。会場も広く、展示花が豊かに映え、好評のうちに終わることが出来ました。

最盛期には2000人いた会員も1000

名弱になっていますが、それぞれの流派が研鑽を積んだ作品を展示することが出来ました。

このうえはなお一層の研鑽精進を重ね、次の世代に「伝統」を受け継ぎ「新しい風」を起こしていきたいと思っています。(華道部・生津春花)



フジタバレエ研究所70周年記念公演「シンデレラ」

2019年11月4日(振) 久留米シティプラザ・グランドホール

エントランスロビーを彩る生花。そして談笑する観客の笑顔が、華やかさを横溢させている。

扉を開くと、ステージ前に穿たれたオーケストラボックスから聞こえる「コンセルエクラタン福岡」のチューニングに合わせるかのように、両手を上げ、つま先立になり、椅子の背もたれで舞い踊る、愛くるしい小さな踊り子人形のお出迎え。

1949年、幼児教育と芸術教育の重要性にいち早く気づいた藤田貞雄が開設した「藤田さだを舞踊研究所」は、その娘藤田美知子氏によって「フジタバレエ研究所」と名前を変えて引き継がれ、今日、創立70周年迎えることとなった。

この栄えある節目に主宰藤田美知子氏を選択した演目は、セルゲイ・プロコフィエフ作曲「シンデレラ」だった。継母や継姉妹に冷たくされ、意地悪されても不平不満も言わず、いつも前を向き、周囲の人達に優しく寄り添うシンデレラの姿を研究生に被せたのではないだろうか、という思いが脳裏をよぎる。

それは「豊かな情操を育むことは、人間陶冶の基礎となる」という理念のもと、いかなる環境、境遇にも屈することなく、利他の心で相手と向き合いながら自分の道を進んでほしいと願っての事だったのではないだろうか。

その期待が乗り移ったかのように、数



年前、研ぎ澄まされた肉体で、官能と無垢の「ONE to 3」を乱舞した中島周氏の監修振付で研究生達の「シンデレラ」が上演された。

箒を相手に舞い踊るシンデレラ。そして軽妙な動きで全体を支えていた継母と継姉妹の、欠かすことのできなかった演技。再び巡り合ったシンデレラと王子の永遠の愛を誓うパ・ド・ドゥ。

そして二度三度のカーテンコールの拍手を聞きながら、かわいらしいシニヨンヘアで、懸命に舞い踊った幼い子供たちに沸き起こった笑いと拍手喝采は、フジタバレエ研究所の未来を暗示しているのではないだろうか、と思えて仕方なかった。(広報委員会)

第73回
久留米茶道連合会
法要大茶会

11月10日(日)、例年通り梅林寺において第73回法要茶会を催しました。午前8時位牌堂にてご献茶の儀(担当大日本茶道学会)。続いて本堂において物故会員の施餓鬼法要。昨年は大日本茶道学会の中川靈宰先生、本年は江戸千家の田中ヨシ子先生の戒名が梅林寺の過去帖に追記されました。雲水様の数は少なくなりましたが、老師様の先導による朗々たる読経の中で、久留米一円の茶道の普及に尽力してくださった先人への感謝。これからの更なる精進を祈りました。9時より茶会。現在希少になった草庵の茶室、「臨川亭」「聴松軒」の2茶室で濃茶を味わい広間での薄茶を楽しみました。参会者約500名。
(茶道部・草場宗玲)



第5回
観月茶会

(裏千家淡交会久留米支部)

10月12日(土)、久留米シティプラザにおいて観月茶会を開催いたしました。和室は夜ばなしのしつらえで灯明のあかりの中静かに始まり、大会議室は月点前でおもてなし。久しぶりの茶箱点前でお客様方にもお喜びいただきました。遠くには東の空に美しいお月さまもほほえんでくださり、楽しい茶会で多くのお客様との出会いに感謝の一日でございました。
(茶道部・伊藤宗満)

第4回
久留米ジュニア文芸大会

ジュニア文芸大会は詩・短歌・俳句・川柳を小中高校生対象に公募することによって、ジュニア世代に発表の場を提供し、感性を高め心豊かに成長することを願って開催するものです。

今回は詩8人8篇、短歌505人509首、俳句506人551句、川柳821人1311句の応募をいただき、心より感謝いたします。

11月10日(日)、久留米市庁舎くるみホールで表彰式が行われました。

◎大賞「短歌」中学校の部

夕立が部活帰りの俺を刺す

汗と雨とが入り混じる夏

榎原中等学校2年 中村政斗

(広報委員会)

第66回
桃青忌俳句大会

11月23日(祝)、高良山中腹にある、桃青霊神社吟行の後、上津コミュニティセンター校区会館

で、句会を開催致しました。小春日和の穏やかな一日でした。選者3名の特選句(◎)佳作句は次の通りです。



◎俳縁を深むる一と日翁の忌

大日方明美

歳月の年年早し翁の忌

平岡清志

俳聖を称へ小春の句座となる

大島シゲ子

吉田いずみ選

◎落葉積む荒礎踏みてゆく霊社

大日方明美

芭蕉忌や英気を吸ひに初参加

元谷京子

俳聖を称へ小春の句座となる

大島シゲ子

大坪久美枝選

◎俳聖を称へ小春の句座となる

大島シゲ子

自転車で登る人居る紅葉坂

宮崎みゆき

落葉踏み締めて芭蕉の祠まで

谷川 章子

(俳句部・大坪久美枝)

ムジカ・ソナール・
アンサンブル第25回演奏会

11月10日(日)、文化センター共同ホールで開催しました。

昭和56年に結成された弦楽器による室内楽団であります「ムジカ・ソナール・アンサンブル」は、平成・令和と時代を重ね、聴衆の皆様と共に音楽の喜びを分かち合えたらとの想いで活動を続けてまいりました。

今回はドヴォルザーク作曲の弦楽セレナーデをメインに、演奏会に向けて練習を重ねてまいりました。この曲は今回が2度目のプログラムになりますが、演奏が非常に難しく、これまで避けてきた経緯があります。しかし団員の熱意に揺り動かされ、新しい令和の時代の最初のプログラムとして相応しいと考え、哀愁を帯びた美しいメロディを有するこの曲を演奏しました。

メンバーの高齢化は日本の人口構成そのままで、新しいメンバーも加わり、若い力を得て令和の時代も頑張っていきたいと考えております。

(洋楽部)



2019年筑後・詩の集い 沖縄・戦後の詩 牧港篤三をめぐる

令和元年11月17日(日) 久留米市立中央図書館の視聴覚ホールで、福岡県詩人会と合同開催。参加者は約30名。第一部は「沖縄、戦後詩 牧港篤三をめぐる」と題して、浦田義和氏の講演であった。

浦田義和氏は佐賀大学の名誉教授を経て、現在は久留米大学院の文化研究科客員教授で福岡県詩人会会員。沖縄戦後詩の始まりは、牧港篤三が1945年に米軍捕虜時の配給のライス袋に鉛筆で書いた詩という事であった。戦争の最中、自分の生活の内面をリアルにえがいているのちに「村」という題目で冊子に発表。また彼は、1950年に沖縄戦記、「鉄の暴風」という本を出版している。浦田氏の講演は、大学で講義を聞いているような錯覚で、若返った気持ちがあふつふつと沸いて、楽しいひと時になった。

第二部は詩の朗読。第二回目となるが、今回も多く参加者があった。福岡県詩人会から5名、久留米連合文化会から



山本源太、福富健二、緒方和美の三名、また、飛び込みで二名の参加があつて盛況に終わった。筑後地区の詩の朗読会は定着したようだ。

(詩部・緒方和美)

総合文化部門 文化講演会

第4回 「筆のはなし」

9月15日(日)、サン・ライフ久留米で開催しました。今回は、広島熊野の「休園の水野氏を講師にむかえて『筆のはなし』の講演をしていただきました。最初に、筆匠の方が筆を作るまでのビデオを鑑賞しました。その後、筆の原料である

「筆毛」の種類や、羊毛と剛毛のとれる動物や、短鋒・長鋒・中鋒の長さや太さの違いで線質に違いが出ることなどを、サンプルを示しながら話されました。参加者からは、

「筆の洗い方、保存の仕方等、何もわからない私にも、良くわかるような話でした。」それぞれの筆にもいるいろいろな種類があり、面白く聞くことができました。」



などの感想をいただきました。最後に筆の値段を当てるクイズがあり、一番近い値段を書いた参加者に筆がプレゼントされました。

(国際交流文化部・諸石祥雲)

第5回 「水引き梅結びを学ぶ」

11月2日(土)、サン・ライフ久留米で開催しました。講師は結納茶専門店さいわいや柏原一恵先生(北野町)です。

おしゃれなはし置きづくりから水引き梅結びを学び美しいのし袋をつくりました。35名の受講者の方それぞれが作品が一時半あまりで見事にできあがりしました。

(書画文化部・松師古)



くるめ市民劇団「ほとめき倶楽部」第10回公演

「フーニャおじさん(ほとめき版)」

10月19日(土)・20日(日)、久留米シティプラザCボックスにて開催。原作・アントン・チェーホフ、演出・中村勉也。

旗揚げから10年、くるめ市民劇団「ほとめき倶楽部」による第10回記念となる演劇公演が行われた。

今回の公演は同劇団では初めてチェーホフを取り上げた。いわずと知れた難解なロシア文学であり、演劇人にとってはその実力が試される戯曲。二十代の若者から七十代まで、幅広い団員が参加する市民劇団、作品への取り組みが注目されたが、非常に高評価を得る事が出来た。「この10年で最高の仕上がりの声も。」

演出を手がけた中村勉也氏は、今年芸術奨励賞を受賞した。現在、約100人の団員が所属する同劇団だが、地方の演劇文化の要として、ますます期待が高まっている。(映画演劇部・今村好典)



令和元年 8月〜12月

Table of events for August to December 2019. Columns include event name, date, and venue. Events include '諸石祥雲書作展', '水天宮献茶', '濱田葉子かな書展', '倉敷児童合唱団久留米児童合唱団ジュニオンコンサート', '大日本茶道学会〜第33回福岡地区研修会〜', '総合文化部門第4回文化講演会「筆のはなし」', '第39回連文会員華道展', '第2回創元会福岡佐賀支部合同展及び第39回創元会西日本美術展', '吟詠道連盟第60回吟剣詩舞道大会', '第23回下水道フェア呈茶(裏千家淡交会久留米支部)', '篠山神社大祭献茶(江戸千家久留米不白会)', '井口益次写真集「花鳥風写」童女木池物語', '第68回久留米市総合美術展', '第47回連文会員美術展', '高良大社献茶(裏千家淡交会久留米支部)', '第5回観月茶会(裏千家淡交会久留米支部)', '学校への芸術家等派遣事業(江戸千家久留米不白会)', 'ほとめぎ倶楽部10周年記念公演「フーニヤ伯父さん」', 'ハロック・ヴァイオリンの神髄', '総合文化部門第5回文化講習会「水引き梅結びを学ぶ」', 'Pops Show You久留米公演2019 Autumn concert', 'フジタバレエ70周年記念公演 シンデレラ', '令和元年 筑後・詩の集い', '第4回久留米ジュニア文芸大会(表彰式)', '第73回久留米茶道連合会法要大茶会', 'ムジカ・ソナーレ・アンサンブル第25回演奏会', 'ダンスギヤザリングVol.14 スタジオDD', '日吉神社献茶(裏千家不白流九州支部(野点))', '西部示現会展', '第31回南祥会書作展', '第66回桃青忌俳句大会', '第26回賢順記念全国箏曲祭', '裏千家淡交会久留米支部第66回歳末助け合い茶会', '第6回九州国展', '2019JDカンパニーズダンスパフォーマンス', '100周年記念演奏会 ベートーヴェン 第九', '計報(令和元年8月〜12月 謹んでご冥福をお祈り致します。)', '國分大幸さん(写真部) 令和元年8月1日'

令和2年 1月〜7月

Table of events for January to July 2020. Columns include event name, date, and venue. Events include '九州芸文館トリエンナーレ2019クラフト展 1/11(土)〜26(日)・九州芸文館 大交流室', '久留米喜秀会演能公演 1/19(土)・久留米シティプラザ 久留米座', '第47回久留米謡曲連盟謡曲大会 1/26(日)・久留米シティプラザ 久留米座', '第18回ジュニア青木繁展(絵画) 2/5(水)〜9(日)・久留米市役所 ホワイエ', '連文創立70周年記念演奏会「音楽の送り物」 2/12(水)〜16(日)・久留米市役所 ホワイエ', '利休忌(大日本茶道学会) 2/9(日)・石橋文化ホール', '混声合唱団くるめ市民コール第12回定期演奏会 2/29(日)・国分寺', '第36回利休忌茶会(裏千家淡交会久留米支部) 3/9(土)・石橋文化センター 共同ホール', '第4回一日かぎりのオーケストラ(親子で楽しむ曲の集い) 3/15(日)・少林禅寺', '第67回けしけし祭 3/15(日)・久留米シティプラザ サグラントホール', '第39回心象会展(大石紫光とそのグループ・水墨画) 3/22(日)・順光寺・かぶと山', '第9回茶を楽しむ会(江戸千家久留米不白会) 3/31(火)〜4/5(日)・久留米市一番街多目的ギヤラリー', '久留米歌壇第36集発行 4/1(水)発行', '篠山神社大祭献茶(江戸千家久留米不白会) 4/12(日)・篠山神社', '玉垂宮献茶(裏千家不白流九州支部(野点)) 4/13(日)・玉垂宮', '第5回緑人会写真作品展 4/21(火)〜26(日)・えーるピア久留米 2階ギヤラリー', '総合文化部門古代史学習会 4/25(土) 5/25(土) 6/27(土)・えーるピア久留米 2階', '連文創立70周年記念連文デザイン部展 4/28(火)〜5/6(日)・福岡県立美術館', '高良大社昭和祭献茶(江戸千家久留米不白会) 4/29(祝)・高良大社', '久留米文学第67号発行 5/1(水)発行', '久留米児童合唱団第49回定期演奏会 5/3(祝)・石橋文化ホール', '展示(文芸美術華道総合文化部門) 5/12(火)〜17(日)・久留米シティプラザ 展示室', '久留米連合文化会 展示第47回連文書道部書作家展 5/13(水)〜17(日)・久留米市美術館 1階', '創立70周年記念茶会 第66回文芸道部大茶会 5/16(土)〜17(日)・久留米シティプラザ 和室他', '公演(緑の追想(舞芸芸術部門)) 5/17(日)・久留米シティプラザ サグラントホール', '水天宮献茶(裏千家不白流九州支部(野点)) 5/3(祝)・水天宮', '久留米児童合唱団第49回定期演奏会 5/4(祝)・石橋文化ホール', '第34回大日本茶道学会福岡地区研修会 5/10(日)・大濠公園日本庭園', '令和2年度連文定期総会・祝賀会 5/23(土)・ホテルマリタール創世', '第56回久留米短歌大会 5/24(日)・石橋文化会館 小ホール', '作品募集(応募期間3/1(日)〜31(火) 投稿料一冊につき千円 お問合せ:同大会事務局0942-327487) 6月予定・青木繁旧居', '青木繁生誕茶会(江戸千家久留米不白会) 6/2(火)〜7(日)・久留米市一番街多目的ギヤラリー', '第9回水墨画部展 6/7(日)・百年公園', '水道週間ふれあいフェア呈茶席(裏千家淡交会久留米支部) 6/9(火)〜14(日)・久留米市一番街多目的ギヤラリー', '第3回同様雲習作展 6/14(日)・くるめりあ六ツ門', '学校茶道合同茶会(裏千家淡交会久留米支部) 6/27(土)・遍照院・えーるピア久留米', '第54回仲縄忌俳句大会 6/27(土)・遍照院', '仲縄忌供茶(裏千家淡交会久留米支部) 7/4(土)・えーるピア久留米', '第22回短歌部歌評会 7/4(土)・えーるピア久留米'